



龍膽寺雄

9月17日(木)

この漢字は「りゅうたんじ・ゆう」と読みます。本校の第17回生(大正7年3月卒業)である橋詰雄(はしづめ・ゆう)氏のペンネームです。彼は千葉県印旛郡佐倉町(現在の佐倉市)の生まれで、教員である父・孝一郎氏が茨城県立下妻中学校(本校の前身)に転勤したことで茨城県真壁郡下妻町(現在の下妻市)に転居します。国文学者でもあった父の許には長塚節や横瀬夜雨らが訪れていたようです。本校に入学し「為桜」にも多数の文章を投稿しています。卒業後は慶応大学医学部に入学しますが、中退して作家として華々しくデビュー、佐藤春夫や川端康成らの知遇を得たりして執筆活動に励みますが、次第にシャボテン栽培を本格化させ「原色シャボテン多肉植物図鑑」を出版するほどになります。晩年は再び執筆活動に専念し「龍膽寺雄全集」を刊行します。

今回、龍膽寺雄氏の研究をされている鈴木裕人様より新刊の「龍膽寺雄の本」を寄贈していただきましたのでご紹介いたします。本校の図書館にもありますので是非ご一読ください。

